

幼小連携データベースの開発

佐々木 晃*

幼稚園から小学校へ「人間を理解し関係を調整する力」をコアとした「子どもの育ちが繋がっていく教育課程」を目指し連携研究を進める過程で保育記録や幼児の記録は幼児・児童のプロフィールや指導過程を知る有力な手がかりとなった。そこで、これまで手作業で行っていたものを、専用のコンピューターソフトを開発し、作業の省力化と合理化を図るデータベースを作成した。

〔キーワード：幼小連携，保育記録，データベース，人間を理解し関係を調整する力〕

I. 問題と目的

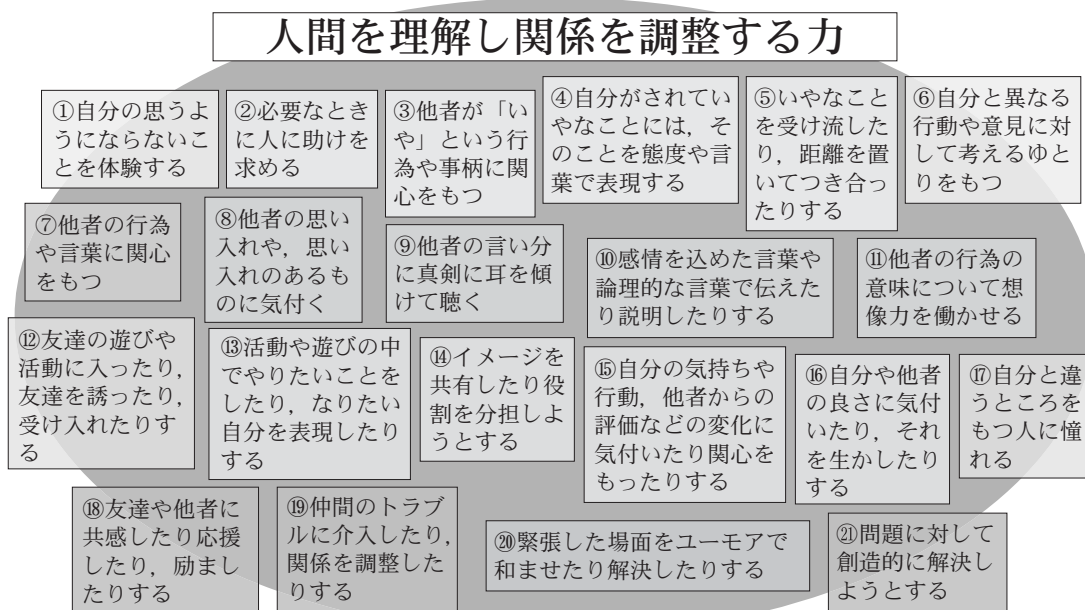
子どもが自由感のある環境の中で存分に遊びや生活をする中で、自然に様々な心情や意欲や態度が育っていくよう、私たちはこれまで保育記録や幼児の記録、保育事例記録など保育資料の研究を進めてきた。この営みは日々の幼児一人一人の活動を詳細に記録し、その活動の流れの中からそれぞれの幼児に育ちつつあることや課題を見出すことや、日々の遊びの様子や幼児の興味から指導計画を考えたりすることに資してきた。また、蓄積したこれら資料は教育課程の見直しや再編成の資料としてきた。

「子どもの育ちが繋がっていく教育課程」を目指し連携研究を進める過程で、この資料は早々と小学校の先生方の目にとまった。「新1年生の子どもたちがどんな遊び

をして、どんなことを学んできたかがわかる」「幼稚園でどんな体験をしてきたかが見えやすい」「一人一人の子どもがどのような道筋で育ってきたのか、どのような力や課題をもってきたかを知る手だてになる」などの意見が出された。また、「いきなり全部のデータというのは時間的にも難しいので、必要と思われるところから少しずつ検索しながら進めていけるようなものがあるといい」「遊びや制作物などは、できるだけ写真なども使って視覚的に分かりやすいようにしてほしい」等の指摘も頂いた。

以上の事柄について考慮しながら、「人間を理解し関係を調整する力」をコアにした指導とその反省評価にも有効に働くようにと、これまで手作業で行っていたものからコンピューターソフトを作成することによって、合理化と作業の省力化を図ったのが次に示すデータベースである。

図1 「人間を理解し関係を調整する力」の21項目



* 附属幼稚園

II. 幼小連携データベースの仕様と構造

図2 幼小連携データベース



図3 日別記録

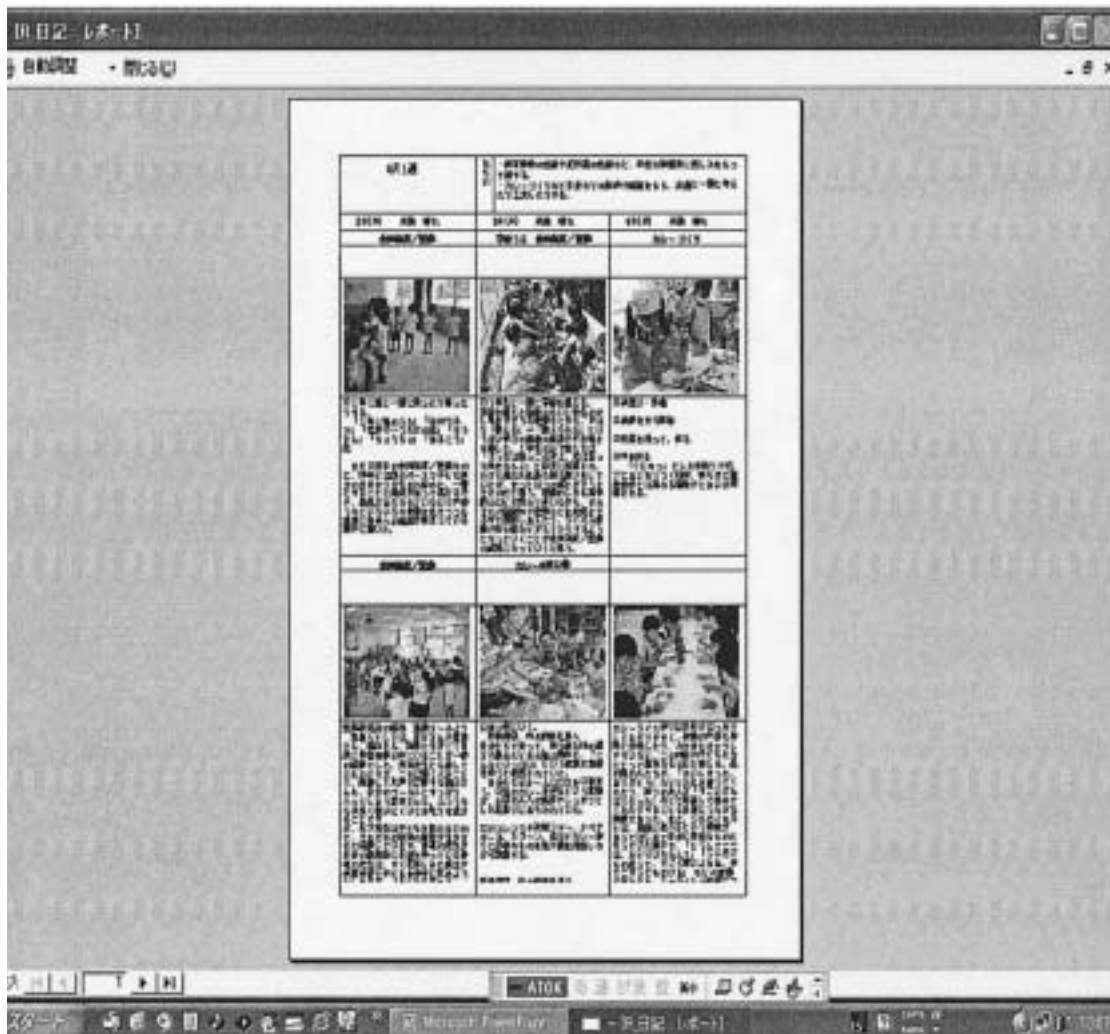


図5 エピソード 検索

エピソード 検索

※詳細情報は検索結果の年度をダブルクリック

戻る

年度: 2018 年度 クラス: 5 3年保育 5歳児 川組

大分類①: 1 人間を理解し、関係を調整する力

キーワード①: 11 他者の行為や言葉に関心をもち

大分類②: 2 環境

キーワード②: 1 自然物や事象

大分類③: 3 遊び

キーワード③: 1 ごっこ遊び

抽出

クラス名	イベント日	記録者	タイトル	エピソード	感想
3年保育 5歳児 川組	2018/04/10		「花に水かけたらいかん」	年中組のときに植えたチューリップが花壇に並んで咲いている。コウコウイチロウもじょうろに水をく	年長組になった晴れがましさや自分の判断や行為への自信が伝わってくる。コウコウイチロウの「花にみずきやる」という漢
3年保育 5歳児 川組	2018/04/10		「ここで、あっていいよ」	園内オリエンテーリングに誘いに星組に行った。川組の幼児と3歳児の星組の幼児がペアになる。	ヤスノリの観察力と、相手の心の状態に添ったかかわり方に感動して記録した事例である。まさに、「関を合わせ、呼
3年保育 5歳児 川組	2018/04/21		「ん・・・」	「佐々木先輩、星組いってきまっす」リョウタは自分の靴や持ち物を整理して片づけると、きりっ	5歳児とその担任の私は、新入園児とのかかわる中でたくさんのことを学んでいる。
3年保育 5歳児 川組	2018/04/30		失敗は成功の元	リョウタは曲がった釘を起こすように、種からコウコウと小さく金釘を動かしている。▼ 先日か	三者三様の人間理解と人間関係の調整の仕方があたたくユーモラスな雰囲気を感じ出している。「必要なときに必要な
3年保育 5歳児 川組	2018/05/20		真ん中	芋畑を作ろうと、砂を運んでいる。ユウミとマユコの二人はざるに入れた砂を担いで運ぼうとして	「働く」という行為には本当に様々な知識や技能や人に対する理解、関係を調整する力が動員されていると感じた事例で
3年保育 5歳児 川組	2018/10/16		こっちがおおきい	1年生と一緒に、春に自分たちが植えたサツマイモを掘り出し	大きい小さい、中くらい、長い、短い、重い、軽い、「～と比べると・・・」など、議論の中では、これまでの生活で自

レコード: 11 / 3 / 6

ATOK 変換 読み上げ 印刷 拡大 縮小

スタート 100%MSOFF 一太郎 印刷 15

図6は、週ごとのいろいろな活動の様子やエピソードをまとめ、その週の幼児一人一人の顕著であった変化や保育者のその幼児への気づきや発見、指導の内容や課題、見通しなどを書き記していくものである。

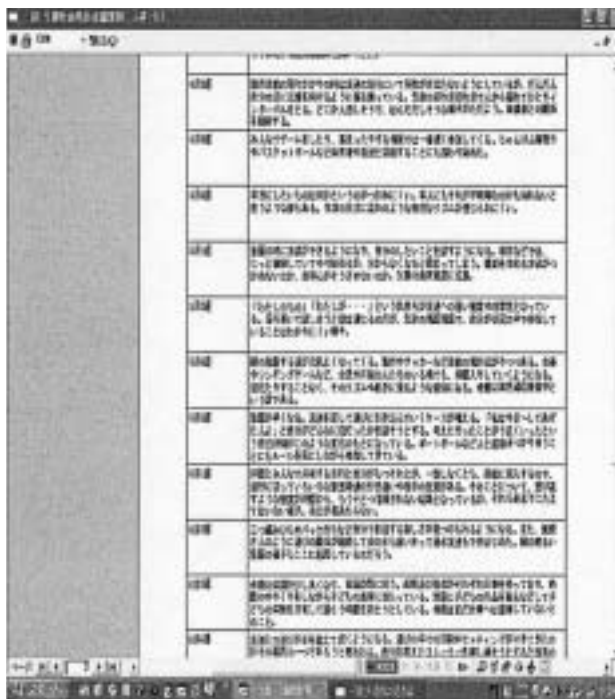
図6 今週の幼児の姿



図6右上の「園児別」をクリックすると、図7のようにその幼児についての週ごとの記録が一覧になって現れるようになっている。これらの記録の内容を見直して現在の指導や幼児理解を省察したり、今後の見通しを得たりすることに役立てている。

また、このような記録内容の変化は、学期ごとの長めのスパンで再度確認し、幼児の「育ち」(発達)の文脈で

図7 園児別記録



捉え直し、整理する。幼児一人一人についてまとめたものが、次の図8「学期別顕著であった育ち」である。

図8 学期別顕著であった育ち



III. データベースを生かした、子どもの育ちをつなげる連携の実際 一人一人の育ちのドキュメンテーションをつくる

幼小連携の実践を進める中で私たちは、子ども一人一人の育ちを修了後も継続して見続けかかわりつづけることのできることの安心と、幼稚園での育ちの記録が読み込まれた上に小学校での学びが積み上げられていく過程を間近で見られる関心を与えられてきた。

人との関係性を通して様々な学び、子どもの人格が育っていく様子を保育や授業の中で、あるいは幼小の教師たちや保護者を交えたカンファレンスの中で子どもと共に紡ぎ上げていく実感が次に例示する育ちのドキュメンテーションの中にある。

【資料 育ちのドキュメンテーション K子のケース】
—幼小連携教育課程の子ども側からの評価—(一部抜粋)

注 エピソード中の下線と数字は、図1「人間を理解し関係を調整する力」を項目別に分けた21項目のナンバーを示す。
(幼児名はすべて仮名である)

平成 12 年エピソード記録より

平成 12 年 6 月 23 日 9:20～	K 子 年少組 (3 歳児)
ブランコで揺れる 記録 (佐々木 晃)	
<p>K 子がブランコに腰掛け、小さく横に揺れている。彼女の隣には、同じ 3 歳児組の 2 人の 女兒が、互いに競うように力を込めてブランコをこいでいる。</p> <p>顔を伏せ、自分の足元に目を落としている④ K 子の睫毛はぬれているように見える。私は窓越しにそんな K 子の様子を見ていたがテラスに出た。ブランコからは幾分離れた園舎の壁に背をもたせると、K 子に起きた出来事を想像しながら、彼女の動きに合わせて身体を軽く左右に揺らしていた。視界の縁に新しい人の気配に気づいた K 子は顔を上げた。⑦ 眉を寄せて睨むように私を見ていたが、こちらの様子に気づいたようで、首を左右に傾けながらより誇張して身体を揺らすようになる。⑧</p> <p>K 子のブランコはユーラユーラとゆっくり揺れている。</p> <p>K 子は笑顔を左右に傾けながらブランコの揺れに身体を預けている。</p> <p>私が彼女と同じ動きをしながら微笑み返すと、首の動きを止めたり、ときどき目を閉じてはその揺れ心地を味わっているような表情をする。</p> <p>彼女のブランコの揺れが大きくなった。私は隣との接触を気にして視線を周りの状況に向けた。すると、K 子はピョンとブランコを降りて私のところへ駆けしてきた。私の薬指と小指をギュッと握ると、「一緒にいく」と言った。② K 子が来ると、後の 2 人も私たちの周りにやってきた。4 人が廊下に出ると、5 歳児のサキが私の姿を見つける。「あっ。先生」サキとアカネは私たちのところへ滑るような早歩きをしてきた。</p> <p>「王子、もうダンスパーティーの準備はとっくにできていますのよ」アカネが私を咎めるように言うと、K 子は私の指を強く握りしめる。</p> <p>私がこの 3 歳児たちのことを気にかけるような視線をおろすと、サキは、「今日は 1 年に一度の大パーティーです。国中の人が集まりますのよ」と K 子たちも促すように誘った。</p> <p>「それは楽しみです。私たちも是非」と私が言うと、恭しくお辞儀をした 2 人の 5 歳児はクルッとレースのスカートをはるがえし、私たちを案内した。</p> <p>私は K 子の手を自分の手のひらの上に軽く載せ、エスコートして 5 歳児の保育室に入っていった。入るなり、いつものように、5 歳児の 女兒たちは、順に私の手を取って踊り始める。</p>	

K 子たちも 5 歳児たちの列に入って、王子と踊る順番を待っている。王子が着飾った年長組の姫を差し上げて回すところで、一層大きな歓声を上げる。⑫⑬ 次第に K 子たちの順番が近づいてきた。K 子と仲間は手をつなぎ、ぴよんぴよん跳びながら待っている。K 子の番がきた。彼女はペコリとお辞儀すると、ワッと私にとびついてきた。⑭ 持ち上げて回されることを期待しているようで、脚を折って上体をそらし、口元から笑いがこぼれている。⑮ 私は K 子を高く差上げる。K 子はカー杯開けた両手をグンと天井に伸ばし、クルクル回っている。

省察

ナイーブで強い自己意識をもちながら、その強さで自分の表現や行動を縛ったり、苦しめたりしてしまっている K 子のつらさが伝わってくる。

「①自分の思うようにならないこと」を体験すると、身体の堅さとして、それが周りの人に発信されていくが、相手の援助は時として彼女の自尊心を砕いてしまったり、「してもらおう立場」に身をおくことで能動的に人や物にかかわっていくチャンスを奪いかねないと感じた。

相手に身を任せつつ、自分の中で理由や論理が見つかる。「⑬遊びの中でやりたいことをしたり、なりたいた自分を表現する」ことや「⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付く」糸口を見いだすことが容易になってくるようだ。

どうも、このあたりに彼女への援助の手がかりがあるように思われる。

平成 13 年指導の記録より

— K 子年中組 (4 歳児) — 指導のまとめより抜粋
記録 (森内 智子)

- ・進級当初、自分のロッカー、引き出しが分からず、何日も「私の鞆置く所分かりません」と言いに来ていた。文字が読めないということで、毎日一緒に名前の文字を読んで場所を覚えられるようにつきあってきた。また、一人でいることが多いので遊びに誘うが、自分の思いに合わないのか拒否されることが度々で、一緒に遊びにくかった。
- ・あちこち見ながら歩いて、自分のする事を決めていた。
- ・ごっこ遊びをするようになり、時折友達との思いがくい違い、言い合いになったり、仲間に入れないうきがあった。保育者は、そのときの自分の気持ちや相手の気持ちを考えられるように、K 子の思いを十分受けとめ、その状況やなりゆき、相手の思いなど

についてゆっくりと話しあうことを心がけた。少しずつ、感情が安定すると、自分から謝ったり、自分でどうにかしようと考えたり、試したりするようになってきた。

- ・リボンダンスでは気に入った衣装をつけて、友達と一緒に踊ることを楽しみ、一つ一つの動きを確かめるように真剣に踊っていた。
- ・折り紙では自分が折りたいものを絵本で探し、難しくても作ろうとしたり、折り紙や色画用紙・空き箱を組み合わせて、身につけたり飾ったりできるものをK子ならではの工夫を凝らして作るようになった。

平成 14 年指導の記録より

— K子年長組(5歳児) —
3 学期の指導のまとめより抜粋

記録 (安野 美咲)

- ・自分なりの価値観をしっかりとっており、自分の意見をはっきりと表現することができていた。また、友達同士のトラブルの場面でも公平な意見を出して仲裁をしたりすることも多くあった。一方では、自分の存在や意見が相手に好意的に受け入れられないと、悔しい感情がやり場を失って一人で泣いていることもあった。このようなことから、感情の表現を安心してできるようにして、自分を客観視するなど、思考と感情と行動のバランスが調和するようにと願ってかかわってきた。
- ・行事で大勢の友達と仕事を分担したり一緒にやりとげたりする体験が重なるにつれて、うれしい感情なども友達との関係の中で積極的に表現しかかわりをもつようになり始めてきた。また、この頃から他学級の友達と一緒にごっこあそびをしたり運動的な遊びに挑戦したりすることも多くなってきた。

平成 15 年エピソード記録より

平成 15 年 7 月 3 日(木)	K 子 1 年 生
「シートベルト」 記録 (佐々木 晃)	
<p>合同保育／授業「たからものオリエンテーリング」が始まった。初めに木下先生がパワーポイントで授業の導入を行う。部屋の明かりが落とされ、プロジェクションの映像が大型スクリーンに投影される。</p> <p>「わあっ」と幼児たちの中から歓声が起こる。何人かの児童や幼児が腰を浮かしてスクリーンの様子を見入る。列の中程に座っていたユウミは、膝で立って、人垣の向こうの映像を見ようとする。</p>	

「はいっ。みんなで読んでみましょう」と木下先生が言うとき多くの児童や幼児は、座り直して題字を読み始める。ユウミは膝を立てた姿勢のままにいる。彼女の後に1年生のK子がにじり寄ってきた。



K子は腕を回し、ユウミの腹を後ろから抱えるようにして、「シートベルト」と小声でつぶやき、彼女を自分の膝に座らせた。^⑳

ユウミは、K子の身体の動きや声に反応しながら、木下先生の言葉に呼応して声を出したり、笑ったり、話題になっている児童の方を見たりしては、少し高くなった視界からスクリーンを見やっている。私が二人にカメラを向けるとK子はちょっと困ったように肩をすくめて、こちらを一瞬見やり、また、前の様子に見入っていた。^㉑^㉒

省察

K子が、ユウミの腹を後ろから抱えるようにして、「シートベルト」と小声でつぶやき、彼女を自分の膝に座らせた一連の動作が私には涙の出るほど感動的でした。年少組のエピソードはK子の繊細さと強さと頑なさや切なさを物語るものですが、幼稚園の3年間、彼女は少しずつ解き放たれてはきているものの、そんな性質を持ち続けていたように思われました。ところが、今日の彼女の姿は、新たな自分の姿を表現し、古いイメージと決別するかのようでした。

木下先生も『「入学式の次の日は3枚ずつプリントとってくださいね』と私がみんなに言ったら、K子だけはどうするかがのみ込めなかったのか、むっとした表情で立ちつくしていました。

どんなふう新しい友達や担任とかかわっていくか楽しみでした。彼女は5月くらいからぐんぐん様子が変わってきました。表情がやさしくなってきた、ちょっと困ったことがあっても泣いたり投げ出したりしにくくなりました。学習もいい感じですよ」と話していました。私もほっとした、うれしい気持ちです。

ー幼小連携ホットラインメールよりー

平成15年10月6日(月)

木下先生へ

・・・、前日の体育の時間、走り高跳びに尻込みしていたK子が、友達の「がんばれ」の声援を受けて挑戦したお話は、とてもうれしかったです。彼女はうまく跳べませんでしたが、木下先生は、「仲間の声に後押しされて、『やろう』と挑戦したのが感動的でした」とお話していましたね。私も、困ったときや思うようにならないとき、心を開いて仲間の応援を受けたり、期待に応えようとしたりする姿勢が変わってきたなと思いました。

佐々木

平成15年10月10日(金)

佐々木先生へ

・・・(記録より)、さて、今日の体育の高跳びの時です。K子が駆け寄ってきて、「昨日、お母さんとゴムで練習したよ。なかなかとべなかったけど、とんだ。」と伝えてくれました。⑩⑮ そして今日も3回目で見事50センチをクリアしました。涙を見せずに跳びました。まさに勇気と生きる力を感じた瞬間でした。今日も午後は出張で、明日も高知へ行ってないので、メールで送ります。未知なる高さへのチャレンジが子どもたちの未来を浮き彫りにしてくれた時間でした。

木下

これまで、本データベースの仕様や構造、その活用の実際について述べてきたが、これらのデータがそれにかかわる担任の独善的解釈に偏ることなく、保育者・教師間で共有できるものとなるような工夫を施してある。

各コンピューターをネットワーク化し、担任以外の教官からも自由に参照、検索が行える。これによって担任だけでは見落としがちな、様々な視点からの情報を得ることができる。もちろん管理職のコンピューターからも、各担任の指導計画や指導内容、幼児の発達状況が参照でき、適切なアドバイスが適宜もらえる。また、各学期ごとに行う教育相談では、本データベースの「学期ごとの育ち」をまとめて保護者に伝え、意見を聞きながら、一緒に幼児理解を進めたり、今後の指導について共通理解し、データを整理、修正していくようにしている。

IV. まとめと今後の課題

以上は、私たちの幼小連携教育課程の子ども側からの

評価を探る資料として重要であるばかりか、実は連携教育そのもののようにも思われる。一人一人の子どもがどのような育ちをしてきたのか、どのような可能性や課題をもち、今、何を実現しようとしているのか。あるいは、どのように育っていくのかなど、眼前の子どもの中の過去や未来に温かい関心を寄せていくことが、どれほど力強い支えとなるかは全ての実践者が知っているとおりでである。現在、この部分の厚みが、子どもにとっての連携のなめらかさにかかわっていくのだと実感している。

従って、今年度作成した本データベースを運用する中で生じてくる問題点や新たな可能性などについて、一層の検討を加え修正改良を続けるつもりである。

付 記

この研究は、本附属幼稚園が平成13年度より文部科学省の教育課程開発指定研究校指定を受けて行った、「幼小連携の教育課程開発」研究の一端です。

また、この研究は本園園長佐々木宏子先生、副園長近藤慶子先生のご指導のもと、多忙の中、日々の実践と記録を弛まず続けてこられた附属幼稚園教職員の皆様の努力の賜でもあります。敬意を表し、心より感謝申し上げます。附属小学校 木下光二先生には、多大なご協力とご助言をいただきました。本学 曾根直人先生にはコンピューターに関わるご指導とあたたかいご協力をいただきました。株式会社グローバルシステムズ小林様、本園の子どもたち保護者の皆様に心よりお礼申し上げます。